

東京の博物館めぐりー25

荒川区ー1



平野 武宏

今回は荒川区の博物館めぐりです。東京都の地区別新型コロナウイルスの累計感染者数は毎日、新聞に発表されます。荒川区は東京 23 区内で千代田区に次いで累計感染者数が少ない区です。右上の写真は東京に唯一残った都電で荒川区三ノ輪橋駅を起点に北区、豊島区（寅次郎の家の近くも走ります）を通り、終点は新宿区早稲田駅です。「都電荒川線」と呼ばれていますが、2017 年（平成 29 年）4 月「東京さくらトラム」の洒落た愛称が付きました。沿線の桜やバラ（住民の人々の手入れによる）が見事です。区内にある博物館（記念館・資料館・展示館等の総称とします）から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。館内は撮影禁止ですので、詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。入場料の記載なしは無料です。最寄り駅は代表例と出口です。

バーチャルウォーク「中山道六十九次」の途中経過も報告します。

【荒川ふるさと文化館】 荒川区南千住 6-63-1

最寄り駅 都電荒川線 三ノ輪橋駅

「荒川ふるさと文化館」は国道 4 号線（日光街道や奥州街道を踏襲する道筋で日本橋から青森市を結ぶ）の千住大橋手前にある素盞雄（すさのお）神社を左折するとあります。写真下左は入口で前の道路に絵が描かれています。この地は「奥の細道矢立の地」に位置し、あらかわの歴史・文化に関する情報の発信基地として生まれた区の施設で南千住図書館と併設されています。



写真上右は展示室入口で、写真撮影は入口までです。

開館は 9 時 30 分～17 時。休館日は毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、毎月第 2 木曜日（館内整理日）、12 月 29 日～1 月 4 日（資料整理日）です。

展示室の観覧料は 100 円（区民で中学生以下・65 歳以上・障害者及びその介助者の方は免除）、都民の日（10 月 1 日）と文化の日（11 月 3 日）は無料です。常設展示室は荒川区の先人がたどったくらしを展示、郷土あらかわの歩みを知ることが出来ます。企画展示室は「奥の細道と千住」の展示です。

展示室入口右にある「あらかわ伝統工芸ギャラリー」、玄関前の野外展示「橋本左内の墓 旧套堂（さやどう）」（写真右）は無料です。套堂とは橋本左内の墓を保護するために建てられたお堂です。橋本左内は福井藩士で安政の大獄で捕えられ、小伝馬町で処刑、南千住の回向院に埋葬されていました。回向院の境内整備の際、境内入口にあった旧套堂が荒川区に寄贈されることになり、2009 年（平成 21 年）ここに復元・保存されました。中にある橋本左内像は荒川区と交流ある福井県から寄贈された像とのことです。



【吉村昭記念文学館】 荒川区荒川 2-50-1 ゆいの森あらかわ 2 階・3 階

最寄り駅 都電荒川線 荒川二丁目（ゆいの森あらかわ前）駅

2017 年（平成 29 年）3 月に開設した中央図書館、吉村昭記念文学館、ゆいの森こどもひろばが一体となり、すべての世代の方が利用できる、これまでにない新しい発想の魅力ある区の施設（写真右）

です。人と人、本と人、文化人と人が結びつき、楽しみ、学び、安らげる豊かな森のような施設となるよう名づけられました。東日暮里に生まれ、故郷をこよなく愛した吉村昭（2006 年死去）は生前、荒川区長から吉村昭記念文学館を建てたいとの申し入れに「区民の税金を自分の施設などに使う



ことは本意でない」と固辞、区長の熱意に押され、最終的に「図書館のような施設と併設であれば」と受けられて、実現したそうです。

写真下右は正面入口です。吉村昭記念文学館は 2 階にあります。写真下の左部分は入口に展示の作品の表紙、右部分には昭和 52 年の作品「巖嵐」（くまあらし）



に登場する熊（ひぐま）の実物大のパネルがありました。

吉村昭の作品は 1966 年太宰治賞受賞の「星への旅」、同時発表で菊池寛賞受賞の「戦艦武蔵」など記録文学・歴史文学の作品で吉川英治文学賞、大佛次郎賞などを受賞しています。書斎の三方の壁に天井まで設えられていた書棚の資料を荒川

区へ寄託し、書斎も再現されています。奥様は芥川賞受賞の作家 津村節子さん（ゆいの森あらかわ 名誉館長）と知りました。開館は 9 時 30 分～20 時 30 分、休館日は毎月第 3 木曜日、年末年始、特別整理日です。

【こぼれ話-1】 円通寺 荒川区南千住 1-59-11

「円通寺」は国道 4 号線を千住大橋方向に進む途中、左にある曹洞宗のお寺(写真下右)です。写真下左は「上野寛永寺表門(黒門)」です。上野戦争で新政府軍と戦い、放置されていた旧幕臣彰義隊兵士の遺体を上野の山で火葬し、円通寺に葬ったのが円通寺の住職でした。そんな縁で 1907 年(明治 40 年)帝室博物館から黒門が移築されました。



【こぼれ話-2】 奥の細道 矢立初めの地

「松尾芭蕉」は 1689 年(元禄 2 年)3 月 27 日明け方、深川の「採茶庵」(写真右)から舟で隅田川を遡り、千住で舟を下り、奥の細道の旅に出ました。隅田川は川の真ん中が区境で南は荒川区、北は足立区で、芭蕉が千住のどちらに舟をつけて下りたのか両区で長く論争が続いています。





今回は荒川区の紹介なので南側に船をつけたとします。その後「素盞雄(すさのお)神社」(写真左)にお参り、矢立初めの句「行春や鳥啼魚の目は泪」を詠み、千住大橋を渡り、約600里(約2400Km)約5ヶ月の奥の細道に旅立ちました。「素盞雄神社」は瑞光石の光から出現した二神(素盞雄命と事代主命)を祭神にしています。

写真下左は「千住大橋」(家康が江戸に入って隅田川に初めて架けた橋)、写真下右は素盞雄神社境内に置いてある「芭蕉の道中笠と杖」。脇の説明板の「矢立初めの地」論争を皮肉った芭蕉の言葉が面白いです。「深川を出て、いま千住に着きました。最初の一步がなかなか出せない問題があります。(千住大橋)南詰・北詰。どちらから出発したら良いものか? 些細なことのようにですが、後世の両岸にとっては矢立初めの地として本家争い・論争の種になりかねない問題なのです。私 松尾芭蕉、悩み疲れました。丁度この地には下野(しもつけ)大関様の下屋敷もあり、旅立ちのご挨拶と花のお江戸とのお別れの宴でも・・・
では7日間ほど逗留することにします。その間、道中笠と杖は使いませんので掛けておきます。修験出羽三山との御縁の深いお天王様にご参拝のこれまた御縁。宜しかったら、かぶってみてください。」と記載。



素盞雄神社「天王祭」の「神輿振り」は迫力があります。
寅さん歩 95 江戸・東京の祭-24 江戸らしい祭-9 をご参照ください。

【寄り道】 カフェ・ド・クリエ ゆいの森あらかわ店

正面入口を入り1階左にあります(写真下左)。暑い日だったので冷製レモンオイル 海老入りパスタ(770円)(写真下右)を美味しくいただきました。平日なのでお昼時でも密にはなりませんでした。



〔バーチャルウォーク途中報告〕

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「中山道六十九次」に挑戦です。7月7日、日本橋を出立し、9月28日、日本橋から39番目の須原宿に到着です。雨で距離が延びません。須原宿は清水が湧き、中央を用水路が通り、



軒先には丸太をくりぬいた水船が置かれ野菜や果物を浮かべる情緒豊かな光景が昔を今に伝えます。



自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。歩く際は密閉・密集・密接の3密にならないようご注意ください！

また、ウォーキングで人との距離(2m以上)が確保できる場合はマスクを外して、熱中症にご注意ください！

次回は 東京の博物館めぐり-26 です。

平野 寅次郎 拝